

公園の花情報 1

1月



01 アオキ 1/2

鳥に種子を運んでもらうため、野山にエサが少なくなる頃、赤くなった実で目を引こうとしているようです。



02 アオキ 2/2

一方で次の花の準備も怠らず、こんなにふくらんだ芽もありました。



03 コフキササルノコシカケ

10月に紹介してから3ヶ月、いくつかは取れてしまったようですが、だんだんと大きくなっています。



04 タコノアシ

夏から見てきた花はもうすっかり種子を落として、実の中は空になったものが多くなりました。今年はずっと増えるといいですね。



05 ハコベ

春の七草のひとつで、いかにも柔らかそうな葉をしていますね。現在は七草をお店で買えますが、早春の野道に七草を求めて散歩するのも楽しいでしょう。



06 ヒレタゴボウ

夏から秋にかけて鮮やかな黄色のかわいい花が群れて咲いていました。今ではすっかり種子を落として、中が空になった実の殻をつけたまま木道の脇で立ち枯れています。



07 フジ蔓

クズも混じって、まるでもつれた太い糸のようです。絡みつかれた木は大変ですが、フジはこうしないと生きていけません。初夏にはこれが緑のカーテンに模様替えされます。



08 ムラサキケマン

この季節に、緑色が淡くて少し褐色がかかった葉は目に留まりやすいでしょう。春に紅紫色の小さい花をたくさん咲かせます。花が待ち遠しいですね。



09 ヤツデ

11, 12月と続けてこの花を見てきましたが、実が少しふくらんできました。この木の葉は、枝の長さや位置を上手に調整してどれにも日が当たるようになっています。



10 オオカマキリの卵

冬枯れの根木内の湿地帯ではカマキリやクモの卵のうがよく目につきます。左のもの(10)はオオカマキリの、右のもの(11)のはチョウセンカマキリ(普通にはカマキリといってます)の卵のうのようです。春まで卵で冬越しするのは余分なエネルギーを使わないで世代交代をするのにはいい方法のようです。あの卵のうからカマキリの幼生(親とまったく同じ形で孵化します)がゾロゾロ出てきます。カマキリは不完全変態ですから親と同じ形で生まれ、脱皮をくりかえして成体になります。

(山口熙さん説明)



11 チョウセンカマキリの卵



10 ナガコガネグモの卵

枯葉がくっついて形はよく分かりませんが、ナガコガネグモの卵のうのようです。つぼ型で赤茶色ですが、たくさんの卵を糸でぐるぐるまきにしたものです。こちらはカマキリと違って孵化して幼生になっていると思います。春までじっとしていますが、あるときにクモの子を散らすようにそれぞれの生活を始めます。クモは昆虫ではありませんから変態はしませんが、こちらも脱皮をくりかえして極彩色のきれいな成体になります。でも、カマキリもクモも生まれるのはたくさんですが無事に成体になって次世代の子孫を残せるのは1%に満たないかもしれません。自然は厳しいですね。

(山口熙さん説明)

		
<p>01 オオイヌフグリ 今日は花の咲いているものがとくに少なく、陽だまりでこの水色の花だけが目につきました。花びらが4枚あるように見えますが、根元がくっついていて、散るときにもくっついたままポロッと落ちます。</p>	<p>02 ニワトコ こんなに芽がふくらんでいるのを見つけました。丸っこい方の芽からは花と葉が、少し細長い方の芽からは葉が伸びてきます。</p>	<p>03 ヒメガマ ガマの穂綿といわれる白い毛が飛びかけています。秋が深まる頃に飛び始めるようですが、木枯らしにも負けずにまだくっついていました。</p>
		<p>ヨシの茎についているきれいなカイガラムシはなんでしょうね。カイガラムシはセミやカメムシの仲間で、口吻を樹皮に差し込んで 養分を吸い取って生活しているようです。貝殻のように硬くなるものや綿をかぶったように白くなるものなどがいるようです。自由に動くものや 最初は動くものの2齢以後はまったく動かなくなるものなどいろいろです。</p>
<p>04 ヤツデ 実が充実して少し重くなったのか、枝がしな垂れています。これがすっかり熟す頃には春が終わろうとしているでしょう。それにしてもたくさんの実ですね。</p>	<p>06 カイガラムシ</p>	<p>樹木に害を及ぼすだけでなく、チョコレートのコーテッド(艶出し?)に利用したり、白ロウをとったりとけっこう役にたつものもいるよう。</p>
		<p>シロダモの樹皮の裏側についている厚ぼったい真綿様のものを、丁寧にめくっていったらアリのごときものがありました。一瞬アリ? と思いましたが、足は8本あることを確認、その後かなり素早い動きで地面に落ちてしまいました。そのことからクモの仲間ではアリグモだと思いました。そんなことアリ? この季節は生き物はひっそりとしています。でも樹皮の内側や、ヨシの髄、落ち葉のベッドなどで暖くなるのをじっと待っています。それを冷たい外気にさらすのは チョットかわいそうなのですが、勘弁してもらいましょう。</p>
<p>05 ユキヤナギ 12月からずっと所々で花を咲かせていて、暖冬に花も戸惑い気味の様子です。今日はどの蕾もとともふくらんでいて、今にも全部の花が咲きそうな勢いです。</p>	<p>07 クモの袋巣</p>	

		
<p>01 アオキ 蕾がふくらんで、今にも咲きそうです。日当たりのよいところではもう咲いているかもしれません。紫褐色の小さい4枚の花びらを持つ花がたくさん集まって咲き、雌雄別株になっています。</p>	<p>02 オランダミミナグサ きょうは曇っているので花が閉じてしまっていますが、ハコベに似た白い小さい花です。道端などでよく見られ、全体に細かい毛が多く、触ると少しべたつく感じがします。</p>	<p>03 カキドオシ 花のあと茎がつるのように伸びて、垣根を通り抜けるようになることからこの名がつけられたとか。葉をもむとハーブのような良い香りがします。</p>
		
<p>04 カラスノエンドウ これも残念ながら花が閉じていますが、かわいい紅紫色の花はもうおなじみですね。葉の先は巻きひげになっていて、ほかの植物にからんで伸びようとしています。</p>	<p>05 キュウリグサ こんなに小さいものに目を留めた人がいます。ワスレナグサに似ていて、もっと小さい花といえばわかるでしょうか。葉をもむとキュウリのような青臭い匂いがします。</p>	<p>06 スズメノカタビラ イネの仲間です。道端、畑、庭などいたるところで目にして、邪魔な雑草とされているようですが、人に踏まれてもめげずにしっかりと花を咲かせる、たくましい草です。</p>
		
<p>07 タチイヌノフグリ 葉の間に、わずかに水色をしている部分があるのがわかるでしょうか。今は閉じているのですが、オオイヌノフグリと同じ仲間で、もっとずっと小さい淡青色の花を葉の間から咲かせます。</p>	<p>08 タネツケバナ きょうはどの花も閉じがちですね。花の下の方ではもう円柱形の実ができています。アブラナの仲間なので、実もよく似ていますよ。</p>	<p>09 ナズナ 花盛りに近いようです。三角形の実も見えています。「ペンペン草」の名前はこの三角形の実の形を三味線のバチにたとえています。この三角形の中には何個の種子があるのでしょうか？</p>



10 ニワトコ

ブロッコリーのような蕾から、黄白色の花が咲きました。5mm位の小さい花がたくさん集まっています。この木は大きくはならず、根元から何本かに分かれた枝がかたまって生えます。



11 ノミノフスマ

ノミほど小さくはありませんが、白い花びらを精一杯に広げても1cmあるかどうかの、かわいい花です。5枚の花びらが深く切れ込んでいて、10枚あるように見えます。



12 ホトケノザ

これも花盛りになりました。花の集団の中のところどころにある、紅紫色のかたまりは閉鎖花という、花を開かないままで実を結ぼうとしている花のようです。



13 モチノキ

芝生広場のタイサンボクの近くに、この黄色い花の咲く木があります。雌雄別株で、この木は雄花を咲かせる雄株です。この木から鳥もちを作ったので、この名がつけられました。



14 モミジイチゴ

木イチゴの仲間で、葉はモミジのように切れ込みます。橙色の小さいイチゴのような実がつき、甘酸っぱくておいしいのですが、なかなか実をつけたものを見つけれません。



15 ユキヤナギ

これはもう説明する必要がないでしょう。雪が積もったようにみごとな花盛りです。



16 レンギョウ

春の喜びを感じさせるような黄色い花は、筒型の花が深く4つに裂けています。雌雄別株で、実がつけば雌株ですが、花で見分けるにはルーペがほしいところです。



17 クモ

昆虫は頭部、胸部、腹部に分かれていて足が6本、複眼を持ち、変態(卵、幼虫、蛹、成虫)をします。なかには蛹にならない不完全変態のもの(カマキリなど)もいます。

クモは昆虫？

クモは足が8本、2~8つの単眼を持ち、変態はしません。何回か脱皮をくりかえし成体になります。クモはサソリやダニなどに近いものです。日本に約1200種いるようですが、網を張って昆虫を捉まえる造網性のもの(オニグモやゴミグモなど)と、自分で動きまわって捉まえる徘徊性のもの(ハエトリグモやコモリグモなど)がいます。見た目は不気味ですが、畑や田んぼでは農作物の害虫を捕食してくれますし、家の中ではゴキブリを捕まえるクモもいます。人間にとっては役に立つ生き物で、ルーペで顔を見るとなかなか愛嬌のある顔をしています。よ〜く見てみてください。きっと親しみをもてると思います。(「困い山森の会」山口照さんの解説)



01 オランダミミナグサ

小さい花もルーペで見ると、こんな風に見えます。萼には毛が多くて、5枚の白い花弁の先は少し切れ込んでいます。メシベ・オシベがどれかもわかりますね。



02 カラスノエンドウ

今が見頃で、もう少したつとアブラムシの方が目に付くかもしれません。蝶が羽を開いたような形に見えることから蝶形花といい、マメの仲間に多い花の形です。



03 キュウリグサ

前回よりも少し大きくなりました。咲く前の花穂は小さくクルリと巻いていて、ほどけながら咲いていくにつれてだんだんと茎が長くなります。



04 ケイツネノボタン

毛が多くて、葉の形が牡丹に似ているからこの名前がつけられたとか。虫に食われたのか花弁が1枚足りませんが、光沢のある花はまるで造花のようです。



05 シロダモ

芽吹いたばかりの新しい葉です。柔らかい毛がびっしりとあって、形はウサギの耳形！見つけたらぜひ触ってみてください。この季節限定の感触です。



06 タンポポ

綿毛の一つひとつの根元にタネがついていて、タンポポはたくさんの花が集まって咲いていたことがわかります。綿毛を飛ばす前に、茎は一段と高く伸びます。



07 タガラシ

花は盛りを過ぎて、緑色をした楕円形の実が目につくようになりました。花の中央の丸いふくらみが、そのまま実になったのだとわかりますね。



08 タチイヌノフグリ

葉の間からのぞく、澄んだ青色の小さな花に注目してください。大きさは3mm位でしょうか。目をこらすとあちこちにこの青い花があり、花盛りでした。



09 タチツボスミレ

日本の春の代表的な花のひとつですね。少し日当たりが良くないようでしたが、元気に咲いていました。この花が群がっていると思わず笑顔になってしまいます。

公園の花情報 2

4月

		
<p>10 タネツケバナ 田一面にはいきませんが、こんなに咲いていました。湿地に面した樹林下の道から、ハコベの白い花とともに、あたり一面に群れ咲いているのが見られます。</p>	<p>11 トキワハゼ 乾いた地面にへばりつくようにして咲いているこの花は見落とされがちです。ほとんど1年中花が見られ、実がはぜるようですが、さてどんな実でしょう。</p>	<p>12 ノヂシャ いつもと違った道を観察して、こんな魅力的な花を見つけました。昔、外国人用のサラダとして栽培されていたものが、春の野を水色に彩る花になりました。</p>
		
<p>13 ハナニラ 観賞用に植えられたものが野生化して、春の道端の花として定着してきました。花を目当てにアブの仲間がやって来ているのがわかりますか？</p>	<p>14 ヘビイチゴ この黄色い花は、虫にはよく目立つことでしょう。紅くかわいいイチゴのような実はヘビが食べるだろうと名付けたとか。あまりおいしくないからでしょうか。</p>	<p>15 ホウチャクソウ 寺院などの軒に下がっている風鈴のようなものを宝鐸(ほうちやく)といい、花の形がそれに似ているそうです。宝鐸をご存じの方は比べてみてください。</p>
		
<p>16 ムラサキケマン 1本の茎に、細長い袋状の紅紫色をした小花がたくさんついて、あざやかで目に留まりやすい花です。これも仏具の装飾品から名前をつけられたようです。</p>	<p>17 ムラサキサギゴケ トキワハゼではないの？と思った人もいられるでしょう。こちらは枝を長く伸ばして増えていく特徴があるのですが、細かいことは言わずに、きれいですね！</p>	<p>18 ユズリハ 縁起の良い木として庭によく植えられますが、花に気付いた人は少ないのではないのでしょうか。雌雄別株で、これは雄花がもうすぐ開くといったところです。</p>



01 アゼナルコ

カヤツリグサの仲間で、田の畔などに生え、垂れ下がった穂を鳴子にたとえたものです。乱れた毛のような部分は雄花、少し白っぽく細かい毛の部分は雌花です。



02 イチゴツナギ

イネの仲間で、子供が摘んだイチゴをこの茎に刺してつないだそうです。刺したイチゴはヘビイチゴの実だったかもしれませぬ。



03 イヌザクラ

白い穂状の花、これもサクラの仲間です。ソメイヨシノよりもずっと遅く、今見頃を迎えています。公園内には大木が3本あり、内2本は芝生広場からよく見えます。



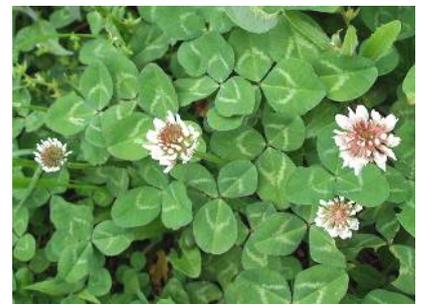
04 カズノグサ

「数の子」と聞くとすぐにピンとくるような、とても数の子に似た花穂をつけるイネの仲間です。不思議な形ですが、上手に例えてあるなと感心してしまいます。



05 カワヂシャ

川辺に生えるチシャ(レタス)という意味で、柔らかそうな葉はいかにも食べられそうです。淡青色の小さな花を咲かせています。国では準絶滅危惧種とされています。



06 シロツメクサ

クローバーとしておなじみのマメの仲間です。ツメクサは「詰め草」と書き、昔、壊れ物を輸送するときの詰め物に、乾燥したこの草を使ったそうです。



07 スカシタゴボウ

スカシの意味はわかりませんが、タゴボウは田の牛蒡とでもいう意味でしょうか。これは枝分かれが多く大きいので、根もしっかりして、牛蒡のようかもしれません。



08 タガラシ

花を拡大してみました。花卉に造花のような艶がありますね。この方が雨にあたっても花卉が傷みにくいような気がします。はたして本当の目的は何でしょうね。



09 ノゲシ

タンポポに似ていますね。同じ仲間、切ると白い乳液が出ますが、タンポポと違って太くしっかりした茎があり、葉は少しトゲがあります。

公園の花情報 2

5月



10 ハルジオン

園芸植物として渡来した花が野生化したものです。白い花が多いのですが、このように淡紅色がかかったものを見ると、お庭の花として好まれたのもわかります。



11 フジ

去年はあまり花が見られず心配したのですが、今年は見事に咲きました。湿地の方から林を見ると、木に絡み登って、緑に映える藤色が美しいです。



12 ミズキ

木に咲いた花です。長く広げた枝の上に白く丸いお皿がいくつも乗っているようで、遠くからもよく目に付きます。小さな花がたくさん集まってお皿を作っています。



13 ムラサキツメクサ

飼料作物として導入されたものが定着しました。たくさんの中の一つをルーペで見ると、カラスノエンドウなどと同じような形をしていることがわかります。



14 ヤエムグラ

この花の茎にはトゲがたくさんあり、幾重にも折り重なって生えて、お互いに支えあっているようです。葉の間に見える淡黄色のとても小さいものが花です。



15 ヤエヤマブキ

園路に植栽されている木も花盛りです。「七重八重 花は咲けども山吹の 実のひとつだになきぞ悲しき」と歌われた通り、この花に実はつきません。



16 ナナホシテントウ

天道虫という名の通り、太陽の方へ、上へ上へと登って行く性質があり、枝に止まらせると上へ上へ、ひっくり返すとまた上へ上へと…こんな遊びをしませんでしたか？



17 バッタの仲間

花ではなく、花の上にいるバッタに注目です。ハルジオンにもいましたが、生まれて間もないのか、小さくて、羽も見えませんが、今、こういう生き物もたくさん生まれています。



18 カルガモ

公園内の水溜りにときどきやってきました。これはカップルでしょうか？ ヒナの移動が話題になりますが、公園内でそんな風景を望むのは無理でしょうか。



01 アオツツラフジ

つる性の木で、フェンスにからまってかわいい花を咲かせています。雌雄異株で、これは雄花のようでしたので、実がつくのは期待できないようです。



02 アジサイ

芝生広場の周りで色とりどりに花盛りです。梅雨の中にしっかりと咲く様子が好まれたのか、日本では古くから栽培されていたようです。



03 アレチギシギシ

なかば倒れかかっていますがギシギシの仲間で、横に広げた枝のまわりに小さい花をまばらな段状につけます。荒れ地に多そうな名前ですね。



04 イヌシデ

大きい葉の間に小さい葉の集団・・・これは若い実です。この小さい葉(苞)の根元にはタネが付いていて、タネは秋に苞についたまま風に乗って飛びます。



05 ウマノズクサ

土橋に向かう坂道の横のフェンスにからまって咲いています。ジャコウアゲハというチョウの幼虫の食草なのですが、幼虫はまだ来ていないようです。



06 エノコログサ

ネコジャラシともいわれ、毛の多い穂が犬のしっぽにも見えるイネの仲間です。この穂を手の中で軽く“にぎにぎ”とやってみてください。どうなるでしょう？



07 オオニシキソウ

緑色の葉と赤い茎を錦にたとえていて、小さく白く見える部分が花ですが、この花の作りは一風変わっています。一度虫眼鏡で覗いてみてはどうでしょう？



08 オッタチカタバミ

外国からやってきたもので、カタバミに似た花をすくと立ち上がって咲かせるところが、地面を這って広がるカタバミとは少し違って見えます。



09 ガマ

上方の枯れたような部分が雄花だったところで、雌花はふっくらとした穂になりました。湿地や池が減った今、ガマの穂を目にするのも少なくなりましたね。

公園の花情報 2

6月



10 キショウブ

花が終わり、実がたくさん付いています。鑑賞用に導入されましたが、繁殖力が旺盛で他の植物を押しつけて一帯を独占してしまうので、注意が必要です。



11 クサヨシ

前回ご紹介したものが、もう花が終わり、実をつけて、これはその中身もなかば落ちてしまっています。まもなく草全体の姿も見えなくなるでしょう。



12 コブシ

実が付いています。春に咲く白い花は知っていても、実はあまり知らないのではないのでしょうか？これが握りこぶしに似ていることが名前の由来だとか。



13 コメツブツメクサ

丸いひとかたまりの花でさえもとても小さいので「米粒」でしょうか。シロツメクサと同じく、外国からやって来たマメの仲間です。



14 タイサンボク

モクレンの仲間で、芝生広場で見られます。白い大きい花が次々と長い間咲き続け、甘い香りにつられて虫も入れ替わり立ち替わりやってきます。



15 ドクダミ

白い花びらのように見えるものは花弁ではなく総苞片というもので、穂状のところには花弁のない小さな花がびっしりついているという不思議な花です。



16 ニワホコリ

イネの仲間ですが、いかにも庭の雑草という感じの名前ですね。花穂を埃にたとえています、庭の草取りをしていると埃のように感じるかもしれません。



17 ミクリ

前は花が咲き始めた紹介でしたが、今は次々と花が咲き、緑色のトゲのあるクリのような実になっているものもあります。国の準絶滅危惧種です。



18 ヤブガラシ

ツル草で、藪を枯らすほどに茂るとか。花びらは目立たない緑色ですが、黄赤色や淡紅色の部分には蜜があり、この蜜をもとめていろいろな虫がやってきます。